

8. SBTの設定手法

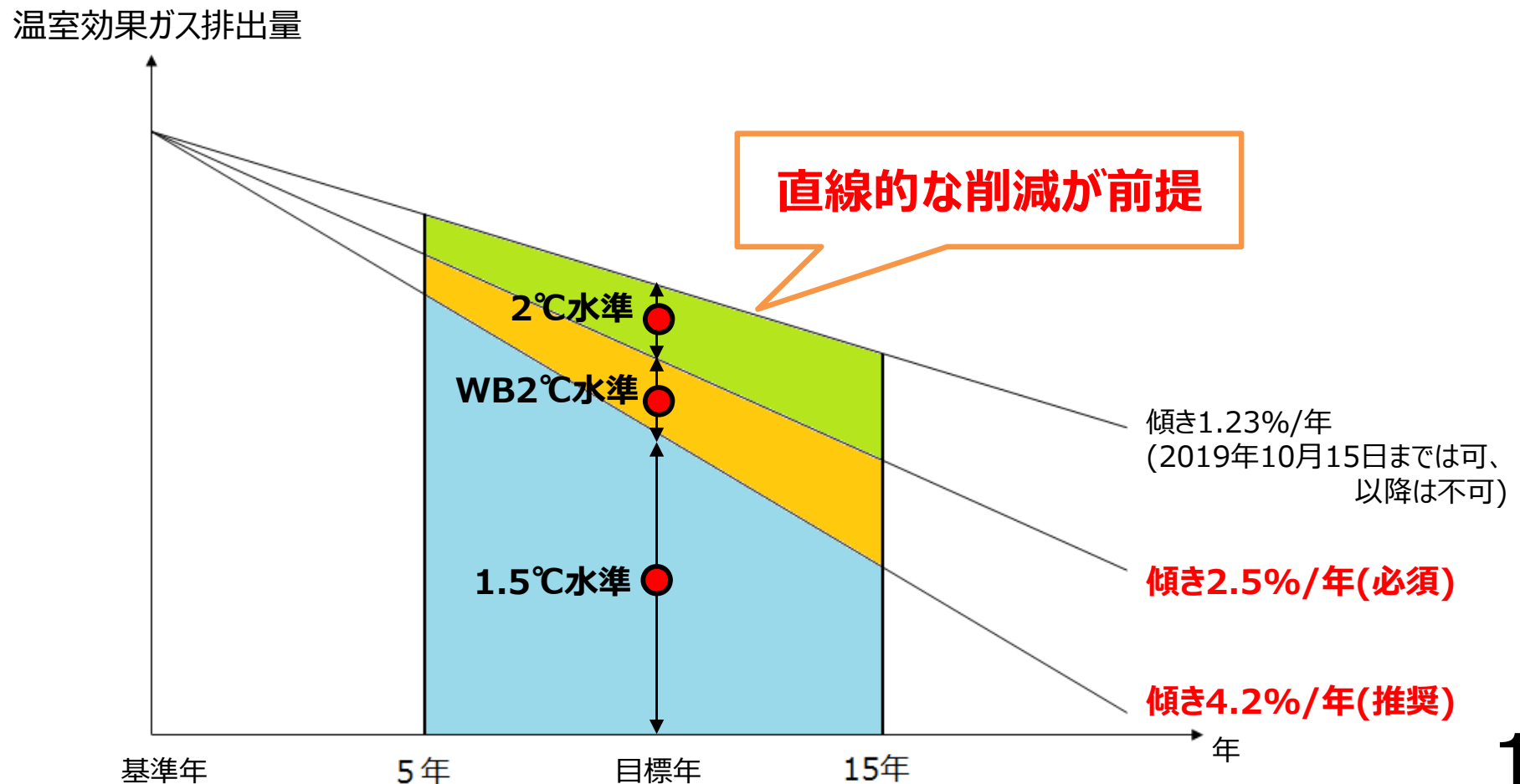
SBTの設定手法

- Scope1,2のSBT設定手法として、原則「**総量削減**」、「**SDA**」の2手法を推奨している

手法	概要	基準	認定水準
総量削減 Absolute Emissions Contraction	<ul style="list-style-type: none"> • (当初の排出量実績に関係なく) 全企業が排出総量を同じ割合で削減する手法。 • 目標の設定と進捗状況の把握が容易で分かり易い手法。 • 多くのセクターに応用が可能 (ただし、使用が推奨されないセクターもある)。 	総量	WB2℃ / 1.5℃
SDA Sectoral Decarbonization Approach	<ul style="list-style-type: none"> • IEAが定めたセクター別の原単位の改善経路に沿って削減する手法 • SDAを利用可能なセクターは下記のとおり。 <div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 発電 ✓ 鉄鋼 ✓ アルミニウム ✓ セメント ✓ 紙・パルプ ✓ サービス・商業ビル ✓ 旅客・貨物輸送 </div> 	原単位	WB2℃ (IEA B2DSシナリオ)

手法その1 総量削減 (Absolute Emissions Contraction)

- ◆ 全企業が排出総量を同じ割合で削減する手法。
- ◆ 基準年から毎年同量を削減していく想定で、現在から5～15年後の目標を設定。



手法その2 SDA（部門別脱炭素化アプローチ） 1/2

- ◆ 総量削減アプローチは、全企業が排出総量を同じ割合で削減するものであるが、当然、部門・業種・業態によって、排出の実態やこれまでの削減取組みの進捗も異なる。
- ◆ このため、SBTではいくつかの部門について、**2050年の、何らかの活動量当たりの原単位の低減水準を設定**し、その部門に該当する企業は、その原単位まで下げるという目標を設定するアプローチも用意している。

⇒ **Sectoral Decarbonization Approach (SDA)**

※具体的な2050年の部門ごとの原単位目標は、IEAが実施した最適化計算による原単位予測をベースにして、SBT事務局にて設定している。

手法その2 SDA（部門別脱炭素化アプローチ） 2/2

- ◆ SDAの設定ではSBT事務局が公開している計算ツールを利用。
- ◆ 計算ツールに「**部門**」、「**基準年・目標年**」、「**事業活動・排出量に関するデータ**」を入力すれば、**目標とする原単位の改善率、削減量、削減率、削減経路が自動で計算される！**

※単一の財やサービスを提供していない部門（例えば機械製造業など）は、「その他製造業」としてまとめて、かつ原単位ではなく総量同率削減にて設定している（この削減率は、世界全体のものとは若干異なる）。

※最新のSBTツール（Ver.1.1）では、化学・石油化学部門のScope1、2計算には利用できない。

※自動車製造業のScope3算定はSDA計算ツールの「Transport Tool」を利用する必要がある。

SDAが設定されている部門

- 以下のセクターに対してSDAが用意されている

部門	中部門	活動量
電力		電力量(MWh)
製造業	鉄鋼	粗鋼生産(トン)
	セメント	セメント生産(トン)
	アルミ	アルミ生産(トン)
	紙・パルプ	紙・板紙生産(トン)
輸送サービス	旅客(航空, バス, 乗用車, 鉄道)	収益・人・キロ(revenue passenger kilometer)
	その他輸送	付加価値(ドル)
サービス・商業ビル	貿易, 小売, 金融, 不動産, 公共部門, 病院等, 教育, 他商業	床面積(m ²)

参考資料

- 環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」
 - https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/
- Science Based Targetsホームページ
 - <http://sciencebasedtargets.org/>